



芭蕉の句「閑さや岩にしみ入蟬の声」(山形市山寺)

奥の細道

松尾芭蕉

古典の日

十四
立石寺



尾花沢にて清風と云ものを尋ぬ。かれ八富も折まかよひて、さすがに旅の情をもしりたれば、日比とよめて、長途のいたはり、さまざまにもてなし侍る。

涼しさを我宿にしてねまる也

這出よかいやが下のひきの声

まゆはきを俤にして紅粉の花

登飼する人は古代のすがたかな 曾良

山形領に立石寺と云山寺有。慈覚大師の開基にして、殊清閑の地也。一見すべきよし、人々のすむるに仍て、尾花沢よりとつて返し、其間七里計なり。日いまだ暮す。麓の坊に宿かり置て、山上の堂に登ル。岩に巖を重て山とし、松栢年ふり、土石老て、苔なめらかに、岩上の院と扉を開て、物の音きこえず。岸をめぐり岩ヲ這て、仏閣を拝し、佳景寂莫として、こゝろすみ行のミ覚ゆ。

閑さや岩にしみ入蟬の声

新編日本古典文学全集第71巻・松尾芭蕉集2『紀行・日記・俳文・連句編』(小学館刊)から転載。校注者・井本農一、久富哲雄

さらに自由で力強い詩心

芳賀徹さんとたずねる
おくのほそ道

「高山森々として一鳥声きかず」というような山路に肝を冷やし、山刀伐峠の険峻を越えて、芭蕉が尾花沢の鈴木清風宅にたどりついたのは、五月十七日の早すぎた。陽暦で七月三日、出羽の国でも夏の盛りである。

清風は芭蕉のいうとおり、まさに「富るものなれども心ざしやいしからず」。最上地方の農家で栽培が盛んな紅花を集荷して、最上川を利用して酒田から京都に搬送する紅花問屋を営み、大名や農民相手の金融業も兼ねるという富商だった。その一方で俳諧のたしなみが深く、同時代の京都、江戸の俳人の多くと親交があり、芭蕉とも三、四年前から江戸で面識があった。「徳川の平和」の下に地方の経済と文化の繁栄を支えた紳士の一人である。

芭蕉と曾良は大いに歓迎され、清風宅や町内の寺に泊り、次々に地元名士に招かれて、五月二十七日までの長逗留となった。「涼しさを」以下の句は、主清風への挨拶の意を含みながらも、芭蕉の安堵の思いと、この奥羽の地に残る奥ゆかしい古代ぶりの好奇心とをあらわしている。しかも、涼しい空気そのものをわが家としてくつろぐ(ねまる)、などというのはまるでシュルレアリストではないか。「ねまる」が古風な北国方言であるように、「養蚕小屋の下の墓」への呼びかけも万葉以来の古い詩法。それを受けて曾良までが登飼する人の「古代のすがた」を讃えた。

清風たちにしきりにすすめられて訪ねたのが山形領の山寺。夏の日の午後遅く、「佳景寂莫」の別天地だった。「立石寺」の章は再び漢詩風の語を多く配して、弦索四重奏の荘重さを響かせる名文だが、その結びに「心すみ行のみおほゆ」とした上で「閑さや岩にしみ入蟬の声」との古今の名吟「石にしみつく」とか「岩にしみ」とか試みた後に「岩にしみつく」ときめるとき、芭蕉俳諧は豁然として新しい境涯に入った。出羽領に入って歌枕巡礼をしばし離れ、詩人は一段と自由に力強い詩心ではないか。



「過去」「現在」を知り、次へ

私が住職を勤めます鹿苑寺(金閣寺)は二年前に開祖足利義満公六百年忌を迎えた。思い起こせば、応永年間、後小松天皇が二十日もの間、金閣に滞在されたことがある。天皇が御所を離れるの所で過ごされた最も

古典と私

京都仏教会理事長 有馬頼底さん



その時代の世阿弥によつて大成された「能」は、観世流などとして現代に脈々と伝えられ、昨年九

長い記録であり、これを機に北山文化は華やかに幕を開くことになる。

月相国寺に於いても観世も乗り越えること。過去、現在ではなく、いかに本質を追究し続けてゆくか、私どもの承天閣美術館で開催された百五歳の山口安次郎翁の能衣装展を拝見して同様の気魄を感じた次第である。

「古を裂く」(いにしえをさき いまをやぶる)「裂古破今」(いにしえをさき いまをやぶる)「古を裂く」(いにしえをさき いまをやぶる)「裂古破今」(いにしえをさき いまをやぶる)「古を裂く」(いにしえをさき いまをやぶる)「裂古破今」(いにしえをさき いまをやぶる)

合掌



松虫姫、鈴虫姫の供養塔がある安楽寺の山門(京都市左京区)

とされる「建永の法難」の発端となりました。藤原定家の『明月記』には「近日、只一向専修の沙汰、搦め取られ拷問されると云々」と記されています。高貴な家柄に生まれた松虫・鈴虫が、格別の待遇を捨て出家を求めると、どんな深い悔みがあったのでしょうか。そして大事件の発端にかかわった後の生涯を、どんな思いで過ごしたでしょう。本堂に祀られる松虫・鈴虫の木像と庭の供養塔には、二人を慰めるようにいつも百合の花が供えられています。(NPO法人・都草 河本 俊子)

松虫・鈴虫姉妹の思い物語る安楽寺の百合

文学ウォーク

古典文学・文化を広めようと、古典の日推進委員会は1月1日を「古典の日」と定めた。

京都市左京区の「哲学の道」近くの法然院の南側に、住蓮山安楽寺はあります。古びた石段と茅葺きの山門が優しい印象の浄土宗のお寺です。一般公開の時期は、ツツジやサツキの花が庭を埋める春と、山門の紅葉が美しい秋。また毎年7月25日の鹿ヶ谷カボチャ供養は夏の風物詩として知られています。鎌倉初期、安楽寺開基の住蓮と安楽は、鹿ヶ谷草庵で法然上人の教えを広めました。二人の唱える声明はとくに美しい響きで評判でした。後鳥羽上皇の女御、松虫と鈴虫の姉妹も教えと声明に魅了され、ひそかに御所を抜け出家します。これが上皇の怒りをかい、住蓮・安楽は死罪、法然が讃岐に、親鸞が越後に流罪

I Love Kyoto



京銀定期預金キャンペーン

新たに100万円以上、期間1年以上の「スーパー定期」「大口定期預金」(いずれも「店頭表示金利」「自動振替型」)をお預けいただいた個人のお客さまに、もれなく観光プラン利用券または特選品をプレゼント!

- A コース** お預け入れ金額100万円以上200万円未満のお客さま
観光プラン利用券A
- B コース** お預け入れ金額200万円以上300万円未満のお客さま
4色よりお選びいただけます。観光プラン利用券B または 特選品(一層信三郎帆布かばん)
- C コース** お預け入れ金額300万円以上500万円未満のお客さま
4色よりお選びいただけます。観光プラン利用券C または 特選品(一層信三郎帆布かばん)
- D コース** お預け入れ金額500万円以上のお客さま
4種類の柄よりお選びいただけます。観光プラン利用券D または 特選品(一層信三郎帆布かばん)

〈定期預金について〉 ●当行本支店で新たに預け入れた定期預金に限らせていただきます。(既に当行本支店にてお預け入れいただいた定期預金の解約によるお預け替えは対象外とさせていただきます。)
●ATM・京銀ダイレクトバンキングでお預け入れいただいた場合は、恐れ入りますがお取引店の窓口までお申し出ください。●定期預金は預金保険の対象です。●スーパー定期・大口定期預金の詳しい内容につきましては、店頭にて説明書をご用意しております。
〈観光プラン利用券について〉 ●各観光プランの詳細につきましては店頭のパンフレットをご覧ください。●観光プラン利用券にはご利用期限【平成22年3月15日(月)】がございます。期限経過後はご利用いただけませんので、期限内にご利用ください。●現地までの交通費はお客さまのご負担となります。
〈特選品について〉 ●かばんのお渡しは後日となります。(窓口にて引換券をお渡します。)
●かばんは受注生産のため、お届けまでに数か月程度を要する場合がございます。あらかじめご了承ください。●掲載写真と実物は、仕様が若干異なる場合がございます。●かばんのサイズ…Mサイズ:縦26cm×横(上36cm/下30cm)×マチ6cm Lサイズ:縦29cm×横(上39cm/下31cm)×マチ8cm ●各コースとも、かばんの色・柄をお選びいただけますが、ご希望の色・柄が品切れの際はご容赦ください。●かばんの色…青ねず・薄茶・赤・黒 ●かばんの柄…木季のうつろい世界のカーン・草花文様 生成り・蔓草紗文様